

ま ち の 話 題

豊岡

書き初め大会

一字一字に心を込めて



▲3年生以上の児童は、体育館に一堂に集まり、一字一字に心を込めて書き初めを行った

1月10日、三江小学校では、全校児童229人が参加し「校内書き初め大会」が開催されました。

この大会は、日本古来の伝統行事の良さを体得するとともに今年1年を頑張ろうという思いを込めて毎年行われているものです。

1、2年生はフェルトペン、3年生以上は毛筆を使って、冬休みの間、各家庭で練習した「大きな希望」「美しい心」「新しい年」などの言葉を、集中して3枚の半紙に清書しました。そのうちの1枚は、各学年の廊下に掲示され、校内は新春の雰囲気になりました。

城崎

新春かるた会

はい!はい!と

みんなでかるたを楽しむ

1月14日、城崎地域公民館で城崎地域公民館と城崎文化協会共催による「新春かるた会」が行われました。

いろはこどもかるたの部では、小学1、2年生と幼児たちが、親子で楽しいひとときを過ごしていました。また、小中学生が2人1組で参加する百人一首の部には、8チーム(16人)が出場し、緊迫した雰囲気の中、1枚をめぐるの真剣勝負を繰り広げました。百人一首の部に姉妹で参加し、優勝した城崎小4年の中川みささんは「2年連続優勝できてとてもうれしいです」と笑顔で話していました。



▲百人一首の小中学生の部では、上の句を読むだけであるかるたを取るなど高レベルな試合が繰り広げられた

竹野

森本保育園 すみあそび

初めての習字 楽しいな



▲初めて習字に挑戦。みんな上手に書けたかな

1月10日、森本保育園で「すみあそび」が行われ、園児たちが習字に初挑戦しました。

この行事は、同園に続く伝統行事で、当日は、春から小学校に通う「めろん組」の園児たち7人が、地元で習字師範をしている米田美和さんに、筆の持ち方など習字の基本を教わりました。

元氣いっぱい字を書いた富田 剛志くん(5歳)は、「筆の持ち方が難しかったけど、楽しかったです」と自身が書いた作品を満足そうに見ていました。

今後は、月2回程度の練習を重ね、園児たちそれぞれが自分の夢を書き込んだ作品を作りあげ、3月の卒園式で発表する予定です。

まちの情報などがありましたら、秘書広報課広報広聴係までご連絡ください。

日高

宵田十日えびす

元気に1年

過ごせますように

1月10日、日高町宵田の西宮神社で、商売繁盛や家内安全を祈願する「宵田十日えびす」が行われ、福を求める多くの善男善女で1日中にぎわいました。

参拝者は、拜殿にお参りした後、恒例のくじ引きを行い、年明け早々の運試しに挑戦しました。中でも人気があるのは、お札や巾着などが笹にくくりつけられた区民手づくりの縁起物の笹鯛で、見事引き当てた人たちは笑顔を浮かべて境内を後にしていました。

宵田区長の高階正夫さんは、「とにかく参拝いただいた方が、今年1年元気に、無事過ごしていただくことをお祈りします」とえびす顔で話していました。



▲くじ引きで当てた縁起物の笹鯛を見つめる参拝者

出石

出石高校人権福祉講演会

植村直己冒険受賞者の

永瀬さんが生徒にメッセージ

12月18日、出石高校で、第10回植村直己冒険受賞者・永瀬忠志さんによる人権福祉講演会が行われました。

リヤカーを引いて世界各地を冒険している永瀬さんは、「リヤカーマン世界を歩く」と題して全校生を対象に、旅への思いや旅で感じたことなどを、スライドを交えて話しました。

最後に永瀬さんは生徒に対して、「自分ではない、やつても無理だと思っていることでも、少しずつやっていけば、次第にできるようになっていきます。挑戦する気持ちを大切に、皆さんの人生がよりよいものになるよう祈ります」とメッセージを送っていました。



▲これまでの冒険の足跡を語る永瀬さん。生徒たちは永瀬さんの内に秘めた熱い心にふれていた

但東

絵本の読み聞かせ会

物語の世界にどっぷり

1月6日、主に児童を対象とした絵本の読み聞かせ会が、高橋地区公民館で開催されました。読み聞かせ会は、毎月1回開催されるもので、当日は、読み聞かせボランティアの浅田和子さんが、「十二支のはなし」と「三匹のくま」の絵本をゆっくりと読み上げ、集まった子どもたちは楽しそうに聞き入っていました。読み聞かせ会に参加した小山由佳さん（高橋小2年）は、「たくさんの絵本を読んでもらえるので、いつも楽しみにしています」と笑顔で応えていました。

なお、読み聞かせ会は、毎月第1土曜日に開催しますので、皆さん、ぜひ参加ください。



▲子どもたちは、楽しい読み聞かせに聞き入り、物語の世界に引き込まれた